



祝祭日には



を掲げましょう

# いまこそ集落創生

第8回 上台地区



▲旧羽州街道を通り金山に入ると程なく見える景色。140年前に金山を訪れたイザベラ・バードはここからの眺めを「ロマンチックな雰囲気」と称したと想像される

町中心部から南に約3km、新庄市と隣接する上台地区は、金山町の最南端に位置しています。国道13号線から見える「上台峠からの眺め」は多くの町民から愛され、その風景はまさに金山の玄関口。今から140年前に、旧羽州街道を抜けて金山を訪れたイザベラ・バードは峠から見た風景を「ロマンチックな雰囲気」と称しており、今も当時から変わらない雄大さを誇っています。

旧羽州街道から地区の入り口まで来ると、左手に赤い鳥居が見えます。その鳥居をくぐり、急な石段を登ると山の中腹にそびえる熊野神社。五穀豊穡、無病息災、家内安全の神様として祀られ、毎年7月15日には祭典が行われます。若連を中心に境内の清掃や神社を抱く太平山の参道を整備し、子ども達が引手となり地区内を練り歩く「だるま神輿」が祭りを大いに盛り上げます。

上台川の清流も欠かせない宝物のひとつ。水田には上台川から水が流れ、美味しい米を育てます。過去に氾濫を繰り返したことも、ミネラル分を多く含む土壌を作ったとされます。また、かつて稲作農家であれば、どの家にもあったという苗代。「田植えが終わるとそこに鯉を放し養殖を始めたのは、上台地区が先駆けではないか。明治の時代からあったと聞いている」と現在も養鯉業を営む天口滋雄区長は話します。現在では2軒ですが、最も多い時には22軒で養鯉を営み、ふ化したばかりの鯉である毛仔モウコを桶に入れて売り歩く「上台の鯉コ売り」は初夏の風物詩となっていたようです。

「峠からの眺めや伝統の祭り、地区に残る産業など。課題もあるが、誇れるものを大事にしたい」。天口区長はそう話し、地区の未来を見据えていました。

**金山町の人口は、5,569人** (9月末現在)

	男性	2,703人(+5)
	女性	2,866人(+2)
	世帯数	1,763世帯

▼9月の異動

出生	2人
死亡	5人
転入	14人
転出	4人

**編集  
幸記**

▼新庄南高校  
山校が70周年、  
町交通安全母の  
会は50周年と、  
10月立て続けに創立から記念  
の節目を迎えました。まさに  
「継続は力なり」。長く続ける  
ことは大切だと改めて感じま  
した。

▼いつの間にか付いたお腹ま  
わりの贅肉を何とかしようと  
筋トレ用具を購入。「1日2  
00回！」と息を巻いたのは  
良いものの、これがなかなか  
続きません。「継続できるも  
のを選択する」ことも大事な  
のではと思い、まずは1日50  
回から始めていきます。(つま)